

動物実験に関する検証結果報告書

学校法人駒澤大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2022年3月

2022年3月7日

学校法人駒澤大学  
学長 各務 洋子 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 三好 一郎



対象機関：学校法人駒澤大学  
申請年月日：2021年7月8日  
訪問調査年月日：2021年10月29日  
調査員：鈴木さつき、荒田 悟

#### 検証の総評

前身である「学林」の設立以来、長い歴史のある駒澤大学は、1882年10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門本校」とし、この日を開校記念日と定めている。現在は、駒沢、深沢及び玉川の3キャンパスがあり、7学部、大学院9研究科を有する、「仏教」の教えと「禅」の精神を教育・研究の基本とする大学である。動物実験及び実験動物の飼養保管は、駒沢キャンパスの文学部で行われている。「駒澤大学動物実験に関する指針（以下、「動物実験指針」という。）」及び「駒澤大学動物実験委員会規程（以下、「委員会規程」という。）」に則り、機関の長の下、計画書の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価及び情報公開等、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則した動物実験が適正に実施されている。実験動物としてはハトが飼養され、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適正に管理されている。動物実験委員会は、積極的に活動しており、殊に、情報公開の内容が充実していること、及び専用のチェックシートを用いた動物実験計画書の審査や動物実験報告書等の確認体制が整っていることは、高く評価できる。一方で、動物実験の実施体制には改善の余地が見られたことから、「公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）」への入会や、関連学協会が主催する教育研修会等への積極的な参加により、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養保管に関する最新情報の入手に努めて動物実験実施体制のさらなる整備を図りたい。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
「動物実験指針」（2019年4月1日改正・施行）並びに「委員会規程」（2021年4月1日改正・施行）が定められている。その内容は、基本指針に則したものである。よって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
現行の動物実験指針で実効性に支障はないが、改訂する機会には管理者を定義する等、公私動協が策定した機関内規程（雛形）第3版を参考とし、飼養保管基準や最新の法令等に基づき詳細に検討されたい。

#### 2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
動物実験指針に基づき、基本指針に適合する動物実験委員会が設置されている。また、委員会規程が策定され、その責務等が明記されている。動物実験委員会の委員構成は基本指針に定める3種のカテゴリーを満たしている。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。

<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
4) 改善に向けた意見 動物実験委員会の委員構成において、3種のカテゴリーすべての委員が計画書の審査に確実に参加できるよう検討されたい。

### 3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験指針に基づき、動物実験計画書をはじめ各種様式が定められ、動物実験の立案、審査及び手続等の実施体制が整備されている。しかし、動物実験指針における飼養保管施設の管理者と実験動物管理者の定義が不明瞭で、改善の余地が残されている。また一部の様式にも不十分な部分がある。よって、動物実験の実施体制について、「基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。」との自己点検・評価の結果であるが、「動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。」とする。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input checked="" type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 動物実験指針で、基本指針が求めるよう飼養保管施設の管理者と実験動物管理者の定義を明確化し、それぞれの役割を担う者を配置するよう検討されたい。また、様式の内容確認や動物実験の実施状況の把握が明確となるよう、動物実験計画書や動物実験報告書等に動物実験委員会の審査結果・意見、機関の長の承認の記入欄を設けられたい。

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
---

<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>安全管理に注意を要する動物実験は行われていない。また、動物実験に麻薬・向精神薬は使用されていない。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

#### 5. 実験動物の飼養保管の体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>飼養保管施設には実験動物管理者が配置されている。施設には緊急時連絡先が掲示され、また、「動物実験施設における緊急時対応マニュアル」が整備されている。飼養保管に関する手順書・マニュアル等の整備が不十分であるとの自己点検・評価であったが、訪問調査時には、これに対する改善の方針を反映した「駒澤大学心理学科実験動物飼育マニュアル」が整備されていた。よって、実験動物の飼養保管の体制について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

年間に計画される動物実験の数は少なく、また実験動物として飼養する動物はハトのみであるが、全学としての動物実験及び実験動物の飼養保管の機関管理体制を組織している。また、事務担当者及び動物実験委員会が連携して外部検証の受検を見据えた十分な準備をしてきた点は評価できる。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 2020 年度には 2 回の動物実験委員会を開催し、「動物実験計画書」の審査、「動物実験報告書」及び「実験動物飼養保管状況等報告書」の確認を動物実験委員会が作成したそれぞれの専用チェックシートを用いて適切に実施している。また、飼養保管施設の視察、教育訓練、自己点検・評価の実施等、基本指針や委員会規程に定められた動物実験委員会の活動が適正に実施されていることが、適切に保管されている動物実験委員会の議事録によって確認できる。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

### 2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 基本指針に則し、動物実験委員会の審査を経て、機関の長が 2020 年度には 2 件の動物実験計画を承認している。また、すべての動物実験計画において、「動物実験報告書」及び「実験動物飼養保管状況等報告書」が提出され、2020 年度の動物実験が動物実験指針に則り適正に実施されたことが機関の長によって把握されている。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

年度ごとの動物実験責任者による自己点検に、「動物実験の自己点検票」も利用することを検討されたい。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

2020 年度には、安全管理に注意を要する動物実験は行われていない。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設への実験動物の搬入出は、「実験動物飼養保管状況等報告書」で年度末に報告されているが、2020 年度には変動はなかった。また、「実験動物飼養保管状況の自己点検票」が提出され、2020 年度に重大な問題は認められていない。飼養保管に関する手順書・マニュアル等の整備が不十分であるとの自己点検・評価であったが、訪問調査時には 2021 年度に策定された「駒澤大学心理学科実験動物飼育マニュアル」に従って、動物実験責任者及び教育訓練を受けた飼養を担当する学生により実験動物が適正に飼養されていた。また、疾病等に罹患した場合の治療等



については、近隣の獣医師との連携がとられている。よって、実験動物の飼養保管状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

法令等に関する教育訓練の他に、飼養を担当する学生に対する実技等の指導も実施されていることより、その記録についても「実験動物飼養保管状況等報告書」に残されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設は常時施錠され、鍵の貸出し記録が保管されて関係者以外の立ち入りが制限されている。飼育室の温湿度は入室時の記録で把握・管理され、空調設備は毎月1回の定期保守・点検が実施されている。日常の清掃及び毎月の飼育ケージ洗浄等により良好な衛生状態が維持されている。また、動物実験委員会による年1回の飼養保管施設の視察が実施されており、改修の必要な箇所はない。よって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。

<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験指針の説明の他に、2020年度には、一般財団法人公正研究推進協会提供の「eAPRIN」による教育訓練を導入し、飼養を担当する学生を含む対象者19名に基本指針や飼養保管基準に準拠した教育訓練を実施し、その記録等が保管されている。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。  <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。  <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>教育訓練の項目に人獣共通感染症を含めること、及び実験動物管理者に対する教育について公益財団法人日本実験動物学会等が主催する研修会等への参加を検討されたい。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。  <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。  <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>2019年度分よりの動物実験に関する自己点検・評価報告書が大学のホームページに情報公開されており、さらに2020年度以降は動物実験に関する外部検証事業に則した自己点検・評価報告書の書式を用いている。これに加えて、動物実験指針及び関連の各種様式等、委員会規程、動物実験委員会委員の情報、動物実験施設における緊急時対応マニュアル、飼養保管の状況、教育訓練の実績等が公開され、基本指針で例示する公開項目を満たしている。2020年度までに外部検証を受検していないとの自己点検・評価であったが、この度の検証を受けたことにより課題は達成された。よって、自己点検・評価、情報公開について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。  <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。  <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>

4) 改善に向けた意見

本検証結果報告書についても、速やかに情報公開されたい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

学部学生から募集した飼養者による毎日のハトの飼育管理体制が構築されている。